

◆国道477号バイパス全線4車線化、イオン四日市尾平店西のクランク交差点解消

長年、取組んできました国道477号バイパス（湯の山街道）の全線4車線化が8月24日に完成しました。これにより、渋滞緩和、救急医療施設への速達性の向上、物流機能の向上などの効果が期待できます。また、現在工事中の北勢バイパスが令和6年度この国道477号バイパスまで開通予定で進められており、これがつながれば更に効果が大きくなり利便性が向上します。引き続き取組んで参ります。加えて、国道477号バイパスの久保田橋から東についての事業化についても先日一般質問で取り上げましたが、実現に向けて取組んで参ります。



もう一点、イオン四日市尾平店西側のクランク交差点を解消して欲しいとの要望をかねてから頂いており取組んで参りました。地元自治会やイオン株式会社などのご協力により、同時に解消することが出来ました。今後もこのような自動車交通のネックとなっているポイントの解消に向けて取組んで参ります。

活動記録



G7関係関係会合誘致推進協議会設立



各常任委員長と共に知事に総合計画の申し入れ



電機連合第3ブロック県議会傍聴総合計画の申し入れ



県議会エントランスで伊勢茶イベント開催



青木議長と共に無事任期終了



新政みえ県政報告会を四日市で開催

- 昭和47年** 四日市市東坂部町生まれ（現在49歳）大池中学校・四日市高校・立教大学法学部卒業、明治大学大学院ガバナンス研究科修了
- 平成7年～10年** 株式会社三重銀行勤務（現三十三銀行）
- 平成11年** 三重県議会議員選挙出馬（26歳）416票差で次点
学習塾・パソコン教室・NPO法人などを立ち上げ4年間生活
- 平成15年** 三重県議会議員選挙 初当選以来4期連続当選
四日市港管理組合議会第45代議長、予算決算常任委員会委員長等を歴任
三重県手話言語に関する条例検討会座長など多数の条例検討会に携わり議員提案条例を制定してきた。
- 平成28年11月** 四日市市長選挙出馬 落選
ユマニテク医療福祉大学 校長他、介護・医療の仕事に関わり2年間生活
- 平成31年4月** 三重県議会議員選挙 5期目当選 新政みえ代表就任
- 令和2年3月** 明治大学大学院ガバナンス研究科修了
- 令和2年11月** 日本ソムリエ協会ワインエキスパート試験合格
- 令和3年5月** 三重県議会第115代副議長就任



趣味：マラソン（12月松阪フルマラソン出場予定）、登山、読書、ワイン（定期的にワイン会開催中）
好きな食べ物：餃子、麺類
尊敬する人物：坂本龍馬
家族：妻、息子（高1）、娘（小6）、両親

Dream21 vol.55

時下ますますご健勝のことと拝察しお慶び申し上げます。早いもので5期目の当選をさせて頂いてから月日は流れ、任期最後の1年となりました。この4年間の大半はコロナとの戦い、コロナから日常に戻すための戦いでした。私は世代間の対立する課題に直面した時は、次世代の立場に立つとの信念を持ち、政治活動を行っていますが、まさにこのコロナ対応では、孤立しても、誹謗中傷を言われても常に子ども達の立場に立って発言をして参りました。Twitterでは、今では多くの共感いただく方の輪が広がり、フォロワーも1万8千人を超えました。コロナは今となっては政府による人災だと思いますが、一日も早く日常に戻せられるよう声を上げ続けたいと思います。



昨年は副議長を務めていたことから、本会議場で質問する機会がありませんでしたが、5月に副議長の任を終え、6月に一般質問の機会をいただきました。主な議論を取りまとめましたのでぜひご覧ください。今後とも変わらぬ、ご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

三重県議会議員 稲垣昭義



《いながき昭義のSNSでの発信力・信頼性は圧倒的!!》

◆いながき昭義ホームページ
<http://dream-21.jp/>

これまでの活動の歴史や、活動写真、Dream21バックナンバー等ご覧いただけます。



いながき昭義 Q検索

◆いながき昭義公式インスタグラム
https://www.instagram.com/akiyoshi_inagaki/

2020年にワインエキスパート試験に合格し、ワインの魅力と子ども達の成長記録を中心に発信しています。フォロワー千人達成間近です。ぜひフォローをお願いします。



◆いながき昭義公式ブログ「初心、継続。」
<https://ameblo.jp/dream-21/>

2007年4月から開始して、コツコツ続けています。



◆音声プラットフォームVoicy
<https://voicy.jp/channel/1462>

10分間に思いを込めてお話しています。現在フォロワー270人、ぜひご登録いただき聞いてください。



◆いながき昭義公式ツイッター
<https://twitter.com/dream21ai>

毎日ツイートしています。フォロワー1万8千人を超えました。ぜひ皆さんフォローをお願いします。



【いながき昭義公式LINEやっています】

公式アカウント >

県政情報をいち早く、タイムリーにお届けしています。

LINEやっている方はぜひ、QRコードから、友だち追加をよろしくお願いします。





◆ウクライナ戦争による本県北勢地域の産業への影響について

稲垣議員：

本年2月24日にロシアによるウクライナへの軍事進攻が行われました。21世紀に入って、ロシアという大国が、国際的ルールや秩序を全く無視して、他国を侵略するという暴挙が起こったことは、未だに信じられず、決して許されることではありません。三重県議会では、3月2日に全会一致で、「ロシアによるウクライナ侵攻に厳重に抗議する決議」を行い、議会の意思を示しました。

この問題は、日本にとって、安全保障上の大きな問題であるとともに、産業界に与える影響も非常に大きいと考えられます。北勢地域の産業の柱である、半導体、自動車産業、石油化学コンビナートへの影響が考えられますが、知事の現状認識をお尋ねします。また、政府の物価高騰対策では、希ガスや希少鉱物資源の安定供給確保、サプライチェーンの強靱化といった視点が非常に弱く感じます。県として、ウクライナ戦争が長期化することを想定した対策が必要と考えますがいかがですか。3点目は、国内に目を向ける企業が増えてくる中、本県にとって企業誘致を進めるチャンスと考え、ぜひ積極的に取り組むべきと考えますが、ご所見をお聞かせください。

一見知事：

まず、自動車産業が一番影響を受けると 생각합니다。部品が入らず、工場の稼働をある程度停止しなければいけないところも出てきています。6月は4割程度の生産減というメーカーもあります。石油化学に関しては、四日市コンビナートはロシアの原油依存度は輸入量の3.6%と聞いており、量自体は大きくないですが、原油価格の上昇を製品に十分には転嫁できてないという声も聞いています。それから半導体は、電気料金上昇の影響が出てきています。

希ガスは、半導体の製造では欠かせないものです。また、ニッケルとかパラジウム等鉱物資源は自動車産業には欠かせないものです。県内企業では、ウクライナ危機前から、経済安全保障の観点から、複数の調達先を手当されており短期的影響はありませんが、価格面での問題、長期的な調達の課題があります。

国は、経済安全保障推進法で、サプライチェーンの強靱化を進めていきます。国に、産業界からの声を丁寧に拾って求めていきます。また、県内の中小企業には、高性能の省エネ機器を買い替える補助金創設や、資金繰り支援の拡充について補正予算に入れましたが、必要な支援をこれからも継続していきます。

野呂雇用経済部長：

海外や県外で生産した製品を、県内製造に転換する事業や、他社に外注していた製品を、県内事業所で内製化に転換する事業などに対して、令和2年度は15件、令和3年度は19件の支援を行い、引き続き、令和4年度も、県内企業におけるサプライチェーンの展開や強靱化の取組みを促進します。また、県外からの新規立地については、グリーン・デジタル関連分野を、新たに企業立地の促進補助金の対象に加え、企業誘致に取組んでいます。今後、戦略的な企業誘致活動を行って参ります。

稲垣議員：

半導体や自動車の話をしましたが、四日市の萬古焼も資材高騰の影響を受けています。陶磁器には耐熱を高めるために、アフリカ産のペタライトという鉱石が使われており、これも3~4倍ぐらい上がっていて、本当に死活問題になっています。価格高騰の対策と、その代替品開発支援も要望致します。

◆ウクライナ戦争のカーボンニュートラルへの影響について

稲垣議員：

政府が2030年に温室効果ガスの2013年度比46%削減、2050年にカーボンニュートラルという目標を公表しました。しかし、ウクライナ戦争で、化石燃料価格が急騰し、エネルギー危機が顕在化してきました。私たちは今、エネルギーの脱炭素化とエネルギーセキュリティ確保の両立が可能かとの岐路に立たされています。

私はこのような危機のときこそ、平時の時は、なかなか進まなかった取組みを、ビジョンを持って積極的に進めるべきと考えます。具体的には、産出国の地政学的なリスクに左右される化石燃料から、再生可能エネルギーへの転換を加速すること、特に本県は、石炭火力からカーボンフリー火力、つまり水素、アンモニア火力への転換を積極的に進めるべきと考えますがいかがですか。

また、これからの日本のエネルギー政策を考えた時に、原子力発電の議論は避けて通れません。原子力発電について知事の考えをお聞かせください。

一見知事：

コンビナートは、四日市だけではなく三重県にとっても重要な産業です。従って、四日市市長と一緒に、3月にコンビナート企業18社で検討会をつくり、化石燃料ではなく、水素、アンモニアにシフトしていくやり方を、試行するため議論を始めました。関係者が一堂に集まって議論するのが一番大事なことだと思います。

原子力についても長期的視点に立って議論を進める必要があると考えます。原子力は、ある程度、実際にワークしておれば、安定的な電力を確保できるため非常にすぐれた電源であると思います。一方、原子力を扱うことは、安全に対して非常な労力がかかると考えます。原子力は安全を最優先に考えていく必要があると思います。

◆#学校から日常にもどせ

稲垣議員：

「#学校から日常にもどせ」は、私が1年半前からSNS上で展開しており、今では多くの共感を得て、この輪が広がっています。

ようやく、厚生労働省の専門家会議から、子供に、過剰なコロナ対策を強いるべきではないとの提言が出されました。学校でのマスクの感染対策効果は限定的だったこと。それ以上に、マスクは子供たちの発達や成長にとってデメリットが大きいこと。休園や休校は子供たちの発達を阻害し、学習能力の低下が社会的損失となることなどが提言されました。

またこれもやっとなのですが、子供たちに症状がない場合は、検査を行う必要はないとの見解が示されました。子供たちが元気なのに、部活動の大会ルール等で検査を一律に求められ、陽性となり、出場辞退を強いられ涙を流すケースを幾つも見ました。このような理不尽に子供たちのこれまでの努力をつぶし、未来の可能性を奪うことは二度とあってはいけないと思います。

知事をお願いします。子供たち、保護者に、学校現場に対して、子供たちの日常大切に、子供たちの発達や成長を大切にすると考えに基づき、学校から日常に戻すとの強いメッセージを出して、子供たちを過度な感染対策から解放してあげて欲しいと思いますが、いかがでしょうか。

また、教育長にお願いします。登下校中など屋外ではマスクを外そうと呼びかけても、子供たちは外しません。私なりに考えると、理由は三つです。一つは、子供たちが、この2年半で、マ

スク依存症になっているということです。丁寧な対応が必要です。もう一つは、濃厚接触者の定義の問題です。学校において、この濃厚接触者の判断基準、運用方法を改め、マスクを外す障壁にならないようにして欲しいと考えます。最後に、特に小学生は大人が外さなければ、マスクを外しません。学校では、子供たちの前で、先生は率先してマスクを外し、子供たちに笑顔を見せてあげて欲しいと思います。この3点について、教育長の所見をお聞かせください。

一見知事：

国も徐々にではありますが、子供たちのマスクについての方針を変えてきました。ただ、日本人ってやっぱり慎重です。マスクが、コロナの感染を防止しているこれも事実だと思いますが、もう一度、私の方から、特に子供たちに対して、マスクの着用が必要でない場面ではマスクを外すことについて、改めて呼びかけを行います。

木平教育長：

子供たちは、学校でマスクを着用して過ごすことが3年目となり、マスクが不要な場面を示されても、外すことに不安を感じたり、顔全体や口元を見られることをためらったり、感染者、濃厚接触者になったり、させたりすることになるのではという不安から、マスクを外せない児童生徒がいる状況にあります。

しかし、熱中症は命に関わる重大な問題でもあり、6月に再度、体育の授業、運動部活動、登下校時は、児童生徒にマスクを外すよう指導すること。その際、まずは教職員がマスクを外すとともに、体育の授業であれば教職員と児童生徒間、或いは児童生徒同士の距離を適切にとったり、体育館では、常時換気を徹底することで、保護者の理解と協力を得ることなどを通知しました。

またマスクについて、学校の状況、発達段階に応じた課題も考えられますので今後、県立学校の状況を確認するとともに、小中学校は、着用の考え方を市町教育委員会とも意見交換するなど、丁寧な対応を行います。

また、現在は高校では一律の濃厚接触者の特定や、行動制限というのは行っていません。ただ同時に、5人以上の感染が発生した場合や、高校からの相談を踏まえて、保健所の方で濃厚接触者の特定が必要と判断された場合には対応しています。

稲垣議員：

マスクは必要に応じて外そうと言いますが、そうではなくて、本来、必要に応じてするものです。マスクをしないのが基本だということを私たちは忘れてしまっています。

教育長には、マスクは、感染対策効果は一定あると言いますが、実はそれ以上に弊害があるということを科学的、専門的な知見が今いっぱい出ていますので、繰り返し、繰り返し子供たちに伝える努力をしていただきたいと思います。

◆NFTで地方創生の可能性について

稲垣議員：

NFTとは、日本語では、「非代替性トークン」と言われ、「換えがきかない唯一無二であることを、ブロックチェーン技術を利用して証明する技術」ということです。

具体的には、愛知県岩倉市では、市の風景写真をNFT化したものを販売する風景写真NFTアートプロジェクトを行っています。新潟県山古志村では、錦鯉をモチーフにNFTデジタル化し、デジタルアート販売を行い、デジタル上の電子住民票として活用できる取組みを行っています。

そこでお尋ねします。本県のクリエイティブな人材と連携し、県内各地の魅力をNFT化して商品化する取組みを始めてはいかがでしょうか。また本県の観光資源をNFT化し海外に向けて発信することにより、海外誘客につなげられると考えますがいかがでしょうか。

三宅デジタル社会推進局長：

NFTはコピーが比較的容易であるデジタルコンテンツに対し唯一無二であることを証明できて、希少性も生じることから、デジタルアート、スポーツ動画のデジタルトレーディングカード、仮想空間での不動産売買など様々な取引を行っています。

県内でも明和観光商社が地域文化のデジタル実装に向けて、町内にある神社のデジタル御朱印をNFTで発行する実証実験を実施したところ。国は、新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画の中で、経済社会の多極集中化の取り組みの一つとして、このブロックチェーン技術を基盤とするNFTの利用等のWeb3.0の推進に向けた環境整備について検討を進めるとしています。

NFTは、今の段階ではまだデジタル技術に感度の高い方々の間で利用されている状況ですが、最新の動向、利用環境整備に係る国の動き、他の地方自治体の活用事例等を収集し、関係部局とも情報共有しながら、施策における活用について研究をしていきます。

◆ワーケーションの取組について

稲垣議員：

私は先日、石垣島に新しくできた株式会社カヤックゼロが運営するワーケーション施設を視察しました。ここでは地域通貨「まーる」を絡めたワーケーションの取組みを行っています。副業禁止という企業はまだある中で、例えば報酬をこの「まーる」のような地域通貨で受け取るといった仕組みができると、移住やワーケーションがさらに進むのではと感じました。

本県では、先日、大型複合リゾートヴィジョンがデジタル地域通貨「Mie Coin」を導入すると報道されておりましたが、ぜひこのような地域通貨をワーケーションや、ふるさと副業の取組みと絡めた新しい仕組みを考えて欲しいと思いますが、いかがでしょうか。

また、私が住む四日市では、近鉄四日市市駅周辺にコワーキングスペースが増えてきました。ぜひ、このような施設とのコラボレーションもご検討いただき、ワーケーションの取組みを進めていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

野呂雇用経済部長：

今年度は、そのサイトの充実やキャンペーン、メディアツアーなどを行い、積極的なプロモーションを予定しています。令和2年度から地域通貨の必要環境整備を行って、モデル事業などに取組んでいます。今年度は、企業のニーズの掘り起こしや課題の把握を行い、課題解決や、ワーケーションの発展に繋がるよう、様々な取組みを検討し、より訴求力のあるワーケーションプログラムを造成していきます。

今後も、三重県がワーケーションの目的地に選んでもらえることを目指して取組んで参ります。

稲垣議員：

今日は長期的な課題もたくさん議論させていただき、提案をさせていただきましたが、特に、「#学校から日常にもどせ」は、短期的な今すぐの課題です。子供たちを日常に戻すため、早急に知事からのメッセージを出していただくことをお願い申し上げます。私の質問とさせていただきます。ありがとうございました。

